

酒だより

第258号 令和7年7月1日

facebook



最新の入荷商品や限定品など

長崎県
五島つばき
蒸溜所

「風景」と「物語」に結びついた、豊かなお酒づくり

GOTOGIN (ゴトジン) 47度 500ml 5500円

五島産「椿のタネ」をキーボタニカルに、17種類のボタニカルを一つ一つ細やかにかつ丁寧に蒸溜し、日々原酒がつくられます。ボタニカル毎に最適な加工と条件設定を行い、個別に蒸溜することによりそれぞれの原酒が完成。そしてその原酒が時間をかけてブレンドされ完成した風土あふれる造り手自慢の1本。



待望の新規取扱！

奈良県 油長酒造

風の森で案内

Kaze no Mori

1719年奈良県に創業。1998年に風の森を発売。

生酒のトロっとした滑らかな質感が、時間が経過するにつれて味わいが繊細に変化する魅力的なお酒。風の森より命名

露葉風
507秋津穂
507露葉風
807alpha 1
次章への扉雄町
807

※商品は都度入れ替わりますのでご確認ください

術、酒造りにかける熱意のこもった受賞酒を！

大吟醸 三井の寿 金賞受賞
福岡県 (株) 三井の寿
味のある濃い味わいのお酒に仕上がっております。是非とも蔵の技、酒造りにかける熱意のこもった受賞酒を！

15年連続入賞

7月上旬入荷
720ml 箱入り
6655円

酸を再定義し、新たな表現へと昇華させた1本。秋に収穫された黒田庄地区の山田錦使用。豊かな香りとしなやかな味わい

特別に設えた2024
醸し人九平次 愛知県
別設ベテラン第三幕
閃光の種 せんこうのしゅ

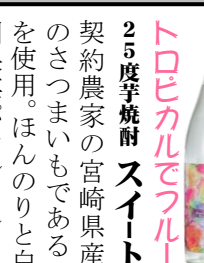
720ml
3850円

爽やかな果実香が魅力的！
25度辛焼酎 ユニコーンカラー
契約農家の宮崎県産熟成むらさきいもである「むらさきまさら」を使用。ほんのりとブドウやマスカットを思わせる色とりどりの香りを存分に楽しめる辛焼酎です。

爽やかな果実香が魅力的！
25度辛焼酎 ユニコーンカラー
契約農家の宮崎県産熟成むらさきいもである「むらさきまさら」を使用。ほんのりとブドウやマスカットを思わせる色とりどりの香りを存分に楽しめる辛焼酎です。

宮崎県
落合酒蔵場
720ml
1760円
1.8L
3300円

トロピカルでフルーティー
25度辛焼酎 スイートモンスター
契約農家の宮崎県産のオレンジ系のさつまいもである「タマアカネ」を使用。ほんのりと白桃のような南国果実パッションフルーツを思わせる色とりどりの香りを楽しめる

宮崎県
落合酒蔵場
720ml
1540円
1.8L
2970円

初の年数表示シングルモルト 2025年 夏数量限定発売

静岡サントリー S 7年 50.5度 500ml 9790円

熟成を経たからこそ得られる、特別な味わい。国産や海外産の多様な産地の麦芽を使ってそれぞれ蒸溜し、バーボン樽を主体に個別に熟成。それぞれの原酒が融合、静岡らしさが詰まった1本！！



2021年8月福岡県朝倉市にて稼働、新道蒸溜所

Shindo Experimental 01 50度 14,300円

シングルモルトとしては初めてとなるリリース。華やかにしてトロピカルフルーティーな香り、口中ではトフィーキャラメルなどミルキーと長い余韻が続く。「独自酵母を用いたニューメイクの徹底的な作り込み」記念すべき最初の1本。700ml



今月のコラム

『 開かずの扉 』

長年、我が家の片隅にひっそりと佇んでいた「開かずの扉」こと納戸。扉を開けてしまえば片付いているように見えてもそこには、物がぎゅうぎゅうに詰め込まれ、奥に何があるのかさえ定かではない状態は、見て見ぬふりをしてきた過去の蓄積そのものでした。しかし、二人の娘と息子がそれぞれ結婚し、夫婦二人きりの生活が始まった今、この長年の課題によりやく向き合う時が来たと感じました。いざ納戸の扉を開け、中身をすべて引っ張り出してみると、そこはまさに「Beforeより汚くなる」状態。しかし、その混乱の中から、懐かしい「お宝」が次々と出て来ました。

子供たちが幼い頃に描いた絵や工作、そして息子の野球のカバンとユニフォームまで。なぜ今まで取っておいたのか、自分でも呆れて苦笑いせずにはられません。

断捨離の大きな節目となったのは、長年大切にしてきたお雛様や羽子板飾り、そして鯉のぼりとの別れでした。赤ちゃんの無病息災や魔除け、厄払いの意味が込められ女の子を守るお守りだったり、鯉のぼりもまた、男の子の健やかな成長と立身出世を願う象徴だったり…そんな子供たちもすでに成人し、それぞれの道を歩み始めた今、これらの役割も一つの区切りを迎えたと感じました。単に捨てるのではなく、これまでの感謝を込めて「お見送り」をしたい。そう思い立ち、岡崎にある一畑山薬師寺へ人形供養をしていただくことにしました。

迫力あるお経が響き渡る中、これまでの感謝を胸に、人形たちに別れを告げました。子供たちの成長を見守ってくれた品々への深い感謝と、親としての役割の一つの区切りを象徴する、心温まる時間となりました。

今回の断捨離を通して、その寂しさとは異なる、不思議なスッキリした気持ちが同時に湧き上がってきました。そして感じたのは「開かずの扉」だった納戸の断捨離は、想像以上に体力と精神力を要する大仕事だということ。ですが、単に物を整理する以上の、深い心の変化を経験しました。子供たちの成長と共に積み重ねてきた思い出の品々を手放すことは、過去への感謝を胸に、未来へ向かうための大切なステップだったのかも知れません。

これからに向けてスッキリした気持ちで前向きに進む準備ができた、そんな今です。 ～スタッフ 鈴木 真理子～